

## 目次

- ・令和元年度決算報告… P 4-7
- ・まちの話題…………… P 8-9
- ・メリクリ☆フォトフレーム作り…………… P 10
- ・県近代美術館企画展「6つの個展 2020」 …… P 11
- ・踏み間違い防止装置整備費補助金…………… P 12
- ・秋季火災予防運動が始まります！ …… P 15
- ・中小企業等事業継続給付金の申請期間延長… P 16
- ・市内全世帯に配布 防災ラジオ貸与申請書…………… P 20

### 12月ワークショップ

## 茅刈り体験 してみませんか？



日時：12月12日(土)

午前10時～午後6時

場所：高エネルギー加速器研究機構（つくば市）

料金：一般1,000円

会員・小中学生500円

定員：30人

申込方法：11月30日(木)までにメールまたはファクスで申し込み

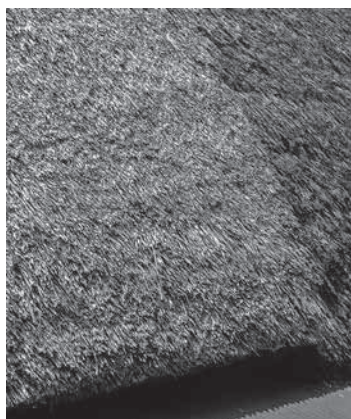
※詳細はお問い合わせください。

☎（一社）日本茅葺き文化協会

Tel・FAX：029-867-5829

✉：info@kayabun.or.jp

## 今月号の表紙



地域おこし協力隊の牧田沙弥香さん（次ページ参照）の撮った写真です。牧田さんは、現在茅葺きの技術を学びつつ、茅の美しさを多くの人に知ってもらいたい、という思いから、隊員に就任した今年4月から、茅の写真を撮り始めました。

牧田さんの撮る茅の写真はモノクロ（白黒）写真のみ。その理由について牧田さんは「モノクロフィルムは光の見え方を記録する目的で長年使っています。陰影を捕らえる時に一番自然に写ると思うから」と話してくれました。牧田さんの写真は、石岡市地域おこし協力隊 Facebook『いしおこし』からご覧いただけます。こちらでは、牧田さんの活動だけでなく9月から協力隊に加わったサイクリスト、堀江さんの活動についても見ることができます。ぜひフォローしてみてください▶



## 市長だより



### 市民の皆さまへ

新聞などで報道されておりますとおり、去る10月2日、本市職員が官製談合防止法違反の容疑で警察に逮捕されました。逮捕容疑は、平成30年10月に行われた石岡運動公園の清掃業務の入札に関し、入札情報を流出させ公正な入札を妨害したというものです。市においても警察の捜査に全面的に協力し、事実確認を進めております。

本件は、「全体の奉仕者」としての責任と自覚を欠いた、公務員としてあるまじき行為です。市民の皆さまの信頼を著しく失墜させるもので、私自身大変遺憾であるとともに、心から深くお詫び申し上げます。

私は、市長として職員を監督する立場ですので、今回の逮捕を重く受け止め、事件の原因究明と再発防止対策を検討するよう関係部署に指示いたしました。今後の取り組みや調査・検討の経過につきましては、市のホームページなどで随時公開し、市政の透明性の確保に務め、市民の皆さまの信頼を回復出来るよう誠心誠意努めてまいります。

改めまして、市民の皆さまにご心配、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げ、これから職員一丸となって、より健全な市政運営を目指してまいります。

令和2年10月12日

石岡市長 谷島 洋司

# 10月3・4日に常陸風土記の丘で実施 茅葺きワークショップレポート



10月3・4日に常陸風土記の丘で、(一社)日本茅葺き文化協会(安藤邦廣代表理事)主催の茅葺きワークショップが行われました。10代の学生中心に市内外から50人が参加し、茅葺きを体験しました。

和歌山県の古民家でゲストハウスを営んでいるという参加者からは「和歌山の風土記の丘にも竪穴式住居がある。同じようにワークショップをやりたいと思って、視察に来ました。実際に体験すると愛着が湧きますよね」と話してくれました。安藤理事は「体験型のワークショップを通して、若い人に昔ながらの知恵や文化を学んでもらういい機会になった」と笑顔を見せていました。

(写真左上から時計回りで)ワークショップ参加者の皆さん、屋根に使用する縄を結ぶ筑波大学生、参加者に葺き方を教える職人の廣山美佐雄さん、茅束をまとめる作業を行う参加者、茅葺きの指導をしてくれた講師のみなさん(左から:牧田沙弥香さん、渡邊大さん、廣山美佐雄さん、江戸達郎さん、瀧田暁月さん)



牧田沙弥香さん(26)  
令和2年4月委嘱。静岡県出身。  
静岡文化芸術大学デザイン学部  
卒業後、東京藝術大学大学院を  
修了。技術を習得し、茅葺きの  
保存と活用による地域振興を目  
指して現在活動中です。

## 今年4月に地域おこし協力隊に就任

## 牧田沙弥香さん(26)にインタビュー

就任当初、私は茅葺きの世界をすごく厳格なもの、非日常的なものだと身構えていました。伝統の中の御法度に囲まれて息苦しい修行が始まるのかと思っていましたが、いざ入ってみると、職人の1日は柔軟で流動的で、自由でした。もちろん技術面で鍛錬が必要なものはそれに勤しみますが、人にはそれぞれ違いがあって「同じ様に」「正しく」全てをこなすことはそれほど求められない様に感じます。それよりもむしろ、屋根を見るとその作り手独自の視点や癖が詰まっていて、そこに豊かさを感じます。それを見るたびに人が手と草で屋根を作っているという当然のことに、今でも感動してしまいます。

この半年間で八郷地区や市外の民家などの葺き替えを行い、現在は稲敷市のお寺の門で作業をしています。今後は引き続き茅葺きの技術も磨きつつ、並行して茅葺きの写真撮影もしていきたいと思っています。